

アスンシオン市・首都圏概要



1537年8月15日にスペイン人により建設されたスペイン王国の南アメリカ政府の拠点として、広大な領土を有したスペインの一副王領（リオ・デ・ラ・プラタ）の主要都市として栄え、1811年にスペインから独立し、アスンシオンはその首都となりました。

現在、アスンシオン市の人口は約520,000人、周辺のルケ、カピアタ、フェルナンド・デ・ラ・モラ市などを合わせた首都圏の人口は280万人になっています。

セントロと呼ばれる旧市街を中心に、政治経済外交などの国家機関が所在していると同時に、教養文化面でも中心的役割を果たしています。また、アスンシオン空港の他、国内外へのバスターミナルがあり、地方都市並びに隣国への交通機関の中核となっています。

近年、パラグアイにおける経済成長は主な国内産業及び対外投資により急激に伸びており、特にパラグアイの投資環境は高い評価を得ています。ここ数年の間に、ブラジル、スペイン、ヨーロッパ、アジアからの進出企業も増えています。

アスンシオン市内及び近郊には、ラ・コルメナ市、チャベス市、ラパス市、アマンバイ市、ピラポ市、イグアス市などの移住地から転住、転出した移住者及びその子孫が多く住んでいます。主な職業は学生を除いて会社員が圧倒的に多く、次いで商業、農業に従事する者もいます。商業の分野は、食料品店、レストラン、美容院、修理工場、輸出入業などのほか、直接農業と結びついた青果物及び鶏卵などの卸売市場や農薬、肥料、種苗店など多彩で、日系社会のみならず、パラグアイの経済社会の発展に貢献しています。

農家はカピアタ市、イタ市などアスンシオン市近郊20km~30kmの周辺に散在し、トマト、ピーマンを中心にメロン、スイカをはじめとする野菜栽培が主流を占め、次いで養鶏、柑橘生産などを市の公営市場を利用した商売を行っています。

社団法人アスンシオン日本人会



アスンシオン日本人会は、アスンシオン地域に在住する日系人の組織として、会員相互の親睦を深める活動を行っています。また、それ以外に、総合運動場と霊園、日本語教育施設を有しています。

日本人会の定例行事として、敬老会、成人式、盆踊りがあり、スポーツ行事として運動会、野球、ソフトボール、バレーボールや卓球なども実施されています。アスンシオン日本人会の系統団体として婦人部、寿会（老人ク

ラブ）及び青年部が存在します。

社団法人アスンシオン日本人会

住所: Carios, No.1864 c/ Rca. Argentina, Asuncion, Paraguay

電話: (+595 21)553 357 / FAX: (+595 21)559 563

E-mail: asuncion_nikkai@hotmail.com

また、アスンシオン市は、アスンシオン日本人会の他に、各分野の日系組織・団体や日系社会の核となる、またパラグアイにおける日系社会を代表する日系諸団体の活動拠点となっています。

主な日系諸団体として、以下のような組織があげられます。

1. 9つの日本人会・文化協会と1日系団体で構成されている「パラグアイ日系・日本人会連合会」
2. パラグアイ全国にある5つの日系農協の連合団体「日系農業協同組合中央会」
3. 在パラグアイ日本都道府県人会連合会
4. 全パラグアイ日系婦人団体連絡協議会
5. パラグアイ日系老人クラブ連合会
6. パラグアイ日系社会福祉協議会
7. 在パラグアイ日本商工会議所
8. セントロ日系



連合会主催福祉合同研修



セントロ日系

コルメナ・アスンセーナ農産業協同組合（CAICA）

1964年にアスンシオン近郊都市の野菜・果物農家を中心としたアスンセーナ農業協同組合が創設されましたが、2004年にラ・コルメナ農業と合併し、コルメナ・アスンセーナ農産業協同組合に改称しました。

創立以来、パラグアイ社会に野菜を紹介し、現在では「野菜と言えば日本人、アスンセーナ」と呼ばれるまでに定着させ、現在もトマトやピーマンなどに加え大根・白菜などの日本野菜も取り扱っています。

アスンシオン市内のマリスカルロペスショッピングの地上階・駐車場で毎週火曜日、朝7:00分からアグロショッピング（市場）が開かれており、新鮮な野菜及び果物などが販売されています。

教育機関関連

アスンシオン市及び近郊には日本語教育及び日系が経営する私立の教育機関がいくつか存在します。

<アスンシオン日本語学校>

アスンシオン日本語学校は、日本人会立の学校であり、1967年から日本人会仮事務所と共に始まりました。現在（2022年12月）は、約120人の保育部から高学部までの児童生徒が通っており、日本語と日本文化を学んでいます。

<アスンシオン日本人学校>

日本の進出企業駐在子弟教育のため、日本のカリキュラムに準じた教育プログラムを実施する学校として設立されました。1972年、三育学院の一教室から始まった海外子女教育は、1979年に補習授業校として認められ、その後日本から派遣教員が赴任、1982年に日本国外務省及び文部省公認のアスンシオン日本人学校と発展しました。

現在でも日本に準じた小中学部の授業を行うと共に現地校との交流や社会見学など国際感覚を磨いています。

<三育学院>

移住者子弟が首都アスンシオンで教育を受けられるよう、共同生活を通して学ぶ野崎記念学生寮が存在していましたが、2015年に学生寮は閉鎖されました。現在は、日本語学校の部として保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校課程、パラグアイ文部省認可の西語学校の部として幼稚園、小学校、中学校、高校課程があります。

<日本パラグアイ学院>

2002年にパラグアイ公認の私立学校として設立されました。午前はスペイン語によるプログラム、午後は日本語教育を進めるほか、英語、コンピューター教室もカリキュラムに組み込まれています。

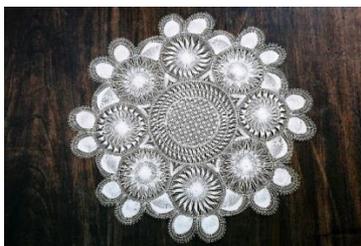
これから教育機関以外にも、日本文化を取り入れた学校として日系人が経営する私立学校 Saint Mary School 及び日本留学で学校教育を学び、その制度に感銘を受けたパラグアイ人教育者夫婦が設立した Nihon Gakko 及び Nihon Gakko 大学が存在します。幼稚園の部から高等部までの生徒は 327 名です。

<アスンシオン観光>

観光面ではセントロに独立記念館、英雄廟などがあるほか、郊外には動植物園、マカ族の村、ランバレの丘などがあります。また、アスンシオン市郊外の見所として、パラグアイのカトリック総本山バシリカのあるカアクペ市、イパカライ湖、銀細工の町ルケ、ニヤンドゥティの町イタグアなどがあります。



ルケ市の銀細工



イタグア市のニヤンドゥティ



イパカライ湖

ちなみに、アスンシオン市は 1970 年 1 月に千葉市と姉妹都市提携を締結しています。アスンシオン首都圏においては、1973 年にサンロレンソ市が大分県竹田市と姉妹都市の締結をしています。